

第 38 回政策研究大学院大学経営協議会議事要旨
The Minutes of the 38th Administrative Council Meeting

- 日 時 : 平成 24 年 11 月 7 日 (水) 15:30~16:45
Date : November 7, 2012 (Wed) 15:30~16:45
- 場 所 : 政策研究大学院大学 研究会室 4A
Venue : Research Meeting Room 4A
- 出席者 :
 - [学外委員]
石田委員、小野委員、加藤委員、工藤委員、嶋津委員、中邨委員、林委員、早房委員
 - [学内委員]
白石学長、大山理事・副学長、恒川副学長、ローズ副学長、堀江副学長、金本学長特別補佐、北岡学長特別補佐、今野学長特別補佐
 - [オブザーバー]
渡邊大学運営局長
- 欠席者 :
 - [学外委員] なし
 - [学内委員] なし

I. 審議事項 (Matters Deliberated)

1. 平成 24 年度学内補正予算について (Revision of FY2012 GRIPS Budget)

資料に基づき、渡邊大学運営局長から、平成 24 年度学内補正予算について説明があり、総事業費は当初予算より 447 百万円増の 3,794 百万円となったこと、予算増の主な要因としては、受託事業費等や補助事業の額の確定、運営費交付金対象事業の雑収入や科研費の間接経費の増によるものとの報告があった。また、主な支出増としてはポイント制導入に伴う教員個人研究費の微増、科研費の間接経費受入増に伴う共通経費支出の増額、外国人教員への日本語研修支援経費の増、国際公募の実施による国際公募関係経費の増である旨、報告があった。

その他 (Others)

特になし。

II. 報告事項 (Matters Reported)

1. 平成 23 年度に係る業務の実績に関する評価結果 (原案) について (Draft of the Result of FY2011 National University Corporation Evaluation)

資料に基づき、渡邊大学運営局長から、平成 23 年度に係る業務の実績に関する評価について、評価結果(原案)が示されたとの報告があり、全体評価は、法人の基本的な目標に沿って計画的に取り組んでいることが認められるとされ、項目別評価も 4 項目の全てにおいて中期計画の達成に向けて順調に進んでいるとの評価である旨、報告があった。また、白石学長から、事実誤認などが確認されなかったことを踏まえ、意見の申し立てはしていない旨、報告があった。

- ◆ 各委員からの主な意見等は以下のとおり。(○:学外委員、△:本学)
(○):「内外の優秀な外国人教員の獲得に努めており」とあるが、留学生の質はどのような状況なのか。

- (△)：学生の志願者数は順調に推移しており、結果として優秀な学生が確保できていると考える。また、志願者対応を充実させる観点からも、ウェブによるオンライン申請画面の改善について着手し始めたところである。
- (○)：留学生満足度調査の評価が、5段階中、4.5以上の評価になっているとあるが、満点評価に届かない主な理由は何か。
- (△)：学生に貸与しているパソコンやネットワーク環境等の状況に問題があるのではないかと考える。この点について現在改善策を検討している。
- (○)：科学研究費補助金の新規採択率が73.1%となっていることは素晴らしい。今後も不断に科学研究費への応募に努めて欲しい。
- (○)：海外の大学・教育研究機関との学術交流協力において、様々なMOUを締結しているが、具体的な目的と交流内容、実際の成果はどのようなものがあるのか。
- (△)：MOU締結により学生交流が盛んになっていること、この他には、本学教員との共同研究の推進、シンポジウムへの参加等、様々な成果を得ている。

2. 入学者等の状況について (Status of Student Enrollment, etc.)

資料に基づき、ローズ副学長から、平成24年10月入学者へのプロモーション活動において諸外国の派遣元のニーズや事情を再認識したこと、また、入試プロセスの見直しの必要性や、新規学生募集対象地域の開拓の必要性について報告があった。続けて、志願者の推移について説明があり、各プログラムとも東日本大震災による志願者の減少の影響は最小限に抑えられた旨、報告があった。次に渡邊大学運営局長から、修士課程各プログラムの志願者の推移並びに入学者について説明があった。

◆ 各委員からの主な意見等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

- (○)：アフリカ開発会議が日本で開催されるが、開催に伴い、何か交流等をもてないだろうか。
- (△)：関係省庁等へ相談し、検討してみたい。
- (○)：独自の入学試験方法とはどのようなものを考えているのか。また、中央アジアの志願者推移が他の地域と異なる点についてどのように考えているのか。
- (△) 中央アジア諸国における本学へのニーズはあると考える。本学について十分に理解してもらえるよう努力を続けたい。また、入試方法については予算上の制約が無ければ直接面接する方法が好ましいが、スカイプ等を用いた面接方法や奨学金支給団体、MOU締結校や民間機関による選抜方法等を考えている。
- (○)：国内プログラムにおいて対象を公務員等に行っているが、公務員数の削減等を勘案すれば、学生募集のターゲットを民間等にも広げてはどうか。また、韓国や中国等の有名大学との競争について検討してはどうか。
- (△)：公務員については、1年間の派遣よりも研修を希望される場合が多いことから、研修制度の整備を検討している。また、民間からの派遣受入れも可能であるが、実際には先方の都合から難しい模様である。
- (○)：スカイプ等のシステムを用いた入試では、実際の語学力を判断しにくい場合もあると考えられるので、本学に特別の英語コースを設置してはどうか。
- (○)：教育の質を確保し、卒業生が更に成果をもたらすような質に重点を置いた独自性を出して欲しい。

(○)：質の高い教育のためには、優秀な教員が国内外から確保できるかが重要であり、給与削減等の影響により確保できないことが無いように努力して欲しい。

3. 「ミッションの再定義」について (Regarding the Redefinition of the Mission of National University)

資料に基づき、渡邊大学運営局長から、年6月に文部科学省から示された「大学改革実行プラン」及び「日本再生戦略」で示された国立大学改革の一つとして「ミッションの再定義」が求められている旨報告があり、国立大学が更なる機能強化を果たすことで社会改革のエンジンという能動的な役割を果たすことが求められていることから、文部科学省主導により、教育研究組織の設置目的や政策的な観点からの大学の強みと特色、国立大学として担うべき社会的な役割等を再定義することとなっているとの説明があった。また、文部科学省の計画では、今年度は教員養成、医学、工学の専門分野について先行実施するが、本学の専門分野についての実施時期は未定であるとの付言があった。

4. その他 (Others)

特になし。

以上